ノ爲メ、木村有香氏ノ意向ヲ尋ネタ處、同氏モ同様ト考ヘラレタ。

笹ニ就テハ、北濃及ビ平瀬ノさゝヲこしぢざゝ、蛭ガ野ノモノハ、ちまきざゝデアルト小泉源一教授カラ敎ヘラレタ。依テ記シテ好意ヲ謝ス。蛭ガ野ニハ、大戟科ノ 1 草本ガアルガ、之ハ他ノ產地ノモノト共ニ、他日古澤潔夫氏カラ發表サレル事ニナツテ居ル。

飛驒大白川產きんもんそうノ腊葉寫眞（×2）

雜 錄 Miscellaneous

○松村任三先生ノ小笠原島採集旅行 （津山 尙）

小笠原島ニ日本人ノ植物學者トシテ最初ニ植物採集旅行ヲシタ方ハ矢田部先生ト松村先生デアル。小生ハコレラノ方々ガ當時如何ナル島々ヲ如何ナル日程デ採集サレタカヲ委シク知リタイト思ツタ。コレハ、小笠原島ノ様ニ植物ノ分布ガ細カニ異ナツテキル所デハtype localityノ問題ニアタツテ、必要ナコトデアル。松村先生ノ書カレタ「故理學博士矢田部良吉君ノ略傳」(植物學雜誌 14 卷、和文 1–4) ニハ「‥‥翌年三月（註、明治 12 年）ニ在ツテハ小笠原嶋ニ航ジテ之ガ採集ニ從事シ‥‥」トアルノミデアルシ、又中井先生ノ書カレタ「理學博士松村任三氏ノ植物學上ノ事蹟ノ概略」(植物學雜誌 29 卷、和文 342–348) ニハ「‥‥。同十二年三月（註、明治 12 年）矢田部氏ニ隨テ小笠原島ニ採集シ、七月岩代磐梯山、飯豐山ニ十二月相州江ノ島ニ採集ス。」トアル。明治 12 年頃ハ未ダ植物學雜誌モ發刊サレテ居ズ、當時刊行中ノ雜誌デコノコトヲ記錄シテキルカモ知レナイモノ、例ヘバ東洋學藝雜誌ヤ地學協會雜誌ヲメクツテ見タガ、何等發見スルコトガナカツタ。後ニ服部廣太郎博士ハ小笠原島ノ植物地理ニツイテ委シク研究サレ、Pflanzengeographische Studien über die Bonin Inseln（東京帝國大學紀要、理科、第 23 册第 10 編、明治 41 年）ヲ發表サレタガ、

ソノ中ニモ唯 "In Jahre 1879 besuchten YATABE und MATSUMURA die Gruppe（註、小笠原島群）um dasselbe zu tun（註、植物採集）" トアルニ過ギナイ。

所ガ中井先生ハ小笠原島ノフローラニ甚ダ興味ヲ持タレテ、理學界 26 卷 4-5 號ニ「小笠原島ノ植物」ヲ連載サレタ。コノ論文ノ初頭ニハ委シイ研究史ガ發表サレタ。ソノ中ニ「一八七九年（明治十三年〔註、明治 12 年ノ誤植〕）十二月帝國大學敎授故矢田部良吉、助敎授松村任三、園丁取締上席內山富次郎氏等は父島に渡り、扇浦に上陸して多數の植物を採集し、其の中の不明のものを露國のマクスモーウキツチ氏に送りて命名を依囑せり。氏は其標本とメルテンス、ポステルス等の採集とを併せて次の諸種を ‥‥（中略）記述せり。」トアル。

當時ノ採集標本ハ勿論東京帝大理學部ノ標本室ニ立派ニ保存サレテキル。當時ノ習慣トシテ、標本臺紙上ノラベルニ一々採集者ノ名ヲ記入ハセズ、時ニハ採集場所ノミデ日附サヘナイモノモアリ、況ンヤ今日ノ様ニ一々鑑定者ガ署名シテ、後日ノ爲ニ備ヘルト言フ様ナコトハナカツタ。ソレ故ニ筆跡ニヨツテ鑑定者ヲ判定スルヨリ他ハナイ。又採集者ノ名ノナイ時ニハ鑑定者ガ採集シタノデアラウト推定シタ場合モアル。小笠原島ノ植物ノ標本ハ、今日デハ矢田部先生ノ筆跡ノアルモノモ、松村先生ノソレノアルノモ、他ノ採集者ノモノト一緒ニ東大ニ所藏サレテキルガ、昔ハ兩先生ガ各々別々ニ、採集サレタモノヲ保存シテキラレタノデハナイカト思ハレル。ト言フノハ兩先生ノラベルノ型式ハ異ナツテ居リ、又同ジラベルノ上ニ御二人デ一緒ニ採集サレタ事ヲ物語ル證據ハ一ツモナイ。同一ラベルノ上ニ御二人ノ手蹟ガ殘ツテキルコトサヘモ稀デアルガ、小生ガ本誌 16 卷、377 頁デ觸レタ様ニ しまむらさきノ標本ノ様ナ例ガ稀ニアルニ過ギナイ。

東大ノ標本ノ中ニハ中井先生ノ記事ニ先立ツ明治 12 年 3 月ノ期日ノ入ツタモノガ數枚アルノデ、一寸不審ニ思ツテキタガ、思ヒ立ツテ今ハ亡イ松村任三先生ノ御宅ヲ訪問シタ。ソレハ昨年ノ 7 月中ノ暑イ日デ、場所ハ小石川區曙町ノ御舊宅デアル。手廣ナ門前ノオ庭ニハ敷石ヤ庭木ガ具合ヨク配置サレ、一種磨キ込ンダ様ナ光ヲ感ジタ。一遍モオ會ヒシタコトハナカツタガ、先生ガコノオ庭ヲ毎日通ツテ植物園ニオ通ヒニナツタノカト思フト一種ノ感慨ガアツタ。近頃ノ騷ガシイ東京ノ中ニモコンナ所ガ殘ツテキタノダナト閑雅ナオ宅ヲ見ルト、何トナク明治文化ノ香ガスルノデアル。先生ノオ弟子デアラセラレル中井先生ノ弟子デアルコトヲオ傳ヘシテ案內ヲ乞フト、先生ノ御長男ノ故 瞭博士ノ未亡人ガオ出ニナツタ。不躾トハ思ツタガ、何カ先生ノ小笠原旅行ニ關スル御記錄デモ拜見サセテ頂ケマセンカトオ願ヒシタ。「ソレハオ藏ノ中ニアルカモ知レナイカラ探シテ置キマセウ。」ト親切ニ仰ツタノデ、當日ハ失禮シテ、又數日後ニオ伺ヒスルト、夫人ハ上等半紙ヲ綴ヂタ、アマリ厚クナイ一帖ノ帳面ヲオ見セ下サツタ。コレハ先生ノ日記風ノ採集旅行メモデアルラシク、表題モ何モナイガ、細々ト日程ヤ採集物、目擊物、其他ノ備忘ガ毛筆、縱書デ倚麗ニ書イテアリ、所々ニハ朱墨デ傍點ヤ、何カノ符號ガ入レテアツタリスル。ソレデ早速廣イ玄關ノ一隅デ寫サセテ頂イタ。小笠原ノ項ハ殘念ナガラ多少簡單デアルガ、中井先生ノオ勸メモアリ、何カノ參考ニモト全文ヲ揭ゲル。植物ノ名ノ中ニハ現在ノモノト異ナツテキルモノガアルノデ、小生ニモ不明ノモノガアル。

「明治十二年三月三日東京發、六日小笠原嶋ニ入港採集ス　十二日歸京　リウビンタイ　イグマ八丈方言　クロテツ　樹高サ四五丈合抱ニ餘ル　多ク枝ヲ分ツ　ウチハカヅラ　砂地ニ匍匐（註、原通リ）スル丁數間ニ及ビ節ヨリ根ヲ生ス　ハマガウ　ソテツナ　山羊此葉ヲ食フ　ムカシヨモギ　岩上ニ生ス　ケシアザミ　カタバミ　ハマボツス　ナヅナ　イソサンシヨウ　灌木高サ一丈ニ及ブ　クルミ　方言　落葉樹圍圍合抱高サ四五丈實ヲ食フ」　以上ハ各植物名ノ所デ行ヲ換ヘナカツタ外ハ原通リデアル。コノ記事ノ次ニハ「仝四月四日　江ノ嶋採集六日歸京」ガアル。

矢田部先生ハ中井先生ノ上ノ引用文ニモアル通リ、MAXIMOWICZ ニ多數ノ小笠原島ノ採集品ヲ送ラレ、ソレハ番號ニヨツテ、東大ノ控ノ標本ニ對應スル樣ニナツテキル。其結果 M 氏ハ 1886 年頃數種ノ新種ヲ發表シ、同年（明治 19 年）6 月ニ出版サレタ松村先生編ノ「帝國大學理科大學標品目錄」ニハ旣ニ 74 種ノ羊歯類以上ノ小笠原島產ノ高等植物ガ紹介サレ、明治 25–26 年（1892–1893 年）ニハ矢田部先生ノ *Eugenia cleyeraefolia*, ひめふともも、*Senecio boninsimae*, たけだくさ ノ 2 新種、明治 34 年（1901 年）ニハ松村先生ノ *Chomelia subsessilis*, しまぎょくしんくゎ、*Geniostoma glabrum* ノ 2 新種ガ夫々植物學雜誌ニ發表サレル樣ニナツタ。

M 氏ガ矢田部先生ノ標本ヲ引イテキルノハ、Bull. Acad. Sci. St.-Pétersb. 31 卷ノ *Senebiera*, *Schima*, *Abutilon*, *Hibiscus*, *Dodonaea*, *Terminalia*, *Syzygium*, *Ipomoea*, *Capsicum*, *Physalis*, *Callicarpa*, *Platypholis*, *Piper*, *Machilus*, *Flagellaria*, *Gahnia* ノ 16 屬、16 種及ビ 32 卷ノ *Ajuga boninsimae* ノ所ノミデアルガ、採集年月ノアルノハ最後ノ一ツニ “(Yatabe, flor. 1884)” トアルノヲ除イテハ一ツモナイ。コノ 1884 年ハ矢田部先生ノ實際ノ年ト異ナルカラ、何カノ間違ヒカ、又ハ矢田部先生ノ名ノ下ニ他ノ人ノ採集品ガ送ラレタノデアラウ。

牧野先生ハ數種ノ小笠原島特產種ヲ記載セラレタガ、ソノ中 *Alpinia boninsimensis* しまくまたけらんノ引用標本中 “Herb.! Sc. Coll. Imp. Univ. Tokyo, March 1879.” ハ兩先生ノ中何レカデアルガ、*Peperomia boninzimensis* しまござうノ引用標本中ノ “Herb.! Sc. Coll. Imp. Univ. Tokyo, Sept. 4, 1881” ハ別ノ人デアル。服部博士ノ上記ノ論文中ノ “Bald darauf brachten HIROTA, SCHISHIDO und IKENO viele Pflanzen von dort.” ノ中ノ廣田氏デハナイカト思ハレル節ガアル。

東大ノ標本室ノ *Solanum boninense* むにんほほづきノ標本ニ松村先生ノ手デ “March 7, 1879 小笠原嶋” ト書カレタノガ一枚アルガ、コレハ松村先生ノ旅行ノートノ記事ニヨク一致スル。

何シロ、今日ト違ツテ交通不便ノ時代ニ大學ノ標本充實及ビ研究ノタメニ小笠原島ニ渡ラレタ先生ノ御苦心ハ相當ノモノデアツタラウト思ハレル。何シロ當時ノ小笠原島司ノ歸來談ガソノ儘、堂々タル地學協會雜誌ニ載ツタ時代デアルカラ他ハ推シテ知ルベキモノガアル。ソレヲ偲ブタメニモ當時ノ委シイ記錄ガモツト在ツタラヨイト思フガ、今ノ所誠ニ不完全ニシカ判ラズ、殘念デアル。